

「沖縄ヘイト」言説

を問う

〈6〉

対等な存在 尊重せねば

つては表だって言えなかった差別的考えが発信されるようになり、ついに放送にまで登場してしまった。ネット上にあふれる偽情報には、自分を肯定してくる、都合のいい情報がある。そうした情報に進んでだまされてしまつ人がいる。でも、事実はあくまで事実。情報の真偽を見分ける力を身に付けなくてはならない。

沖縄に対するヘイトスピーチにはふたつの側面がある。ひとつは在日韓国・朝鮮人らに対するのと同じま、インリティーへの差別。もうひとつは基地反対運動への政治的攻撃だ。

沖繩に対するヘイトスピーチにはふたつの側面がある。ひとつは在日韓国・朝鮮人らに対するのと同じま、インリティーへの差別。もうひとつは基地反対運動への政治的攻撃だ。

降、米軍普天間飛行場の辺野古移設計画が持ち上がり、基地反対運動が持続的に行われるようになると、次第に本土では反発が起き

てくる。粘り強い反対運動に業を煮やした安倍政権は、沖縄の民意を無視して辺野古新基地をつくらうとしているが、沖縄は県を挙げて抵抗している。これを

快く思わない人に、国策にいつまでも抵抗する者は厄介者、非国民だという意識が生まれ、沖縄ヘイトにつながっている。

米安保体制を支持し、その負担とリスクを沖縄に押しつけている。その構造自体が差別だ。

もともと独立国だった沖縄は、明治初期に日本に併合された。異民族という点では在日韓国・朝鮮人と同じで、さまざまな差別にあ

つてきた。そうした歴史的な差別を克服できていない。

一方で、一九九五年の米兵による少女暴行事件以

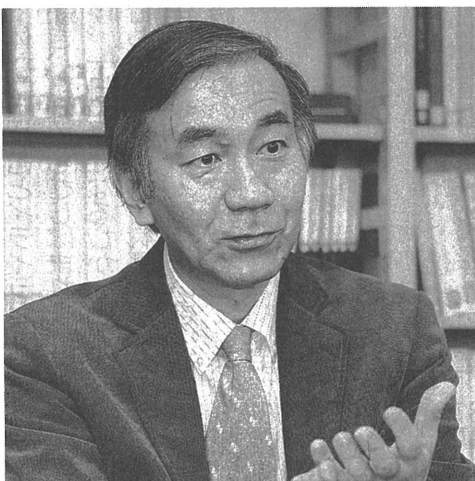
後、米軍普天間飛行場の辺野古移設計画が持ち上がり、基地反対運動が持続的に行われるようになると、次第に本土では反発が起き

てくる。粘り強い反対運動に業を煮やした安倍政権は、沖縄の民意を無視して辺野古新基地をつくらうとしているが、沖縄は県を挙げて抵抗している。これを

快く思わない人に、国策にいつまでも抵抗する者は厄介者、非国民だという意識が生まれ、沖縄ヘイトにつながっている。

東大大学院教授

高橋 哲哉さん(60)



たかはし・てつや 1956年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科教授。専門は哲学。著作に「沖縄の米軍基地 『県外移設』を考える」「犠牲のシステム 福島・沖縄」など。

国内では、東西の大都市の首長が乱暴な発言をして、批判されても、「本音では、みな感じているんじゃないか」と居直ることもあった。ネット上では、か

第一、自国第一という社会になってきている。強者が弱者を踏みつぶすような流れに抗して、人には尊厳があり、互いに対等な存在として尊重し合わなければならぬという考えを、鍛え直さなければならない。

〓おわり